

志望校との距離感・過去問との対峙

例年より短い夏休みがあったという間に終了し、受験生の中にも焦りを感じる人が増えてきたのではないのでしょうか。そろそろ過去問の一つでも解いて、現時点の実力と志望校とのギャップを確認したいところですが、「基礎が固まっていないから…」と手を出せずにいる人も少なくないようです。その気持ちはわからないでもないですが、いつまでも基礎の確認に拘泥していると、結局自分の弱点はどこで、何を克服すればよいかが見えにくいまです。また、「今の自分でも解ける問題」ばかりに手を付けていては、入試レベルの問題に対して粘り強く対応する力は身につけません。少し精神論めいたことを言いますが、それが志望校の問題であるならば、自分のレベルを大きく超えているように思えても、がっばり四つで取り組む経験をしておくべきです。1・2年生の皆さんは、高3開始時までにはその経験ができるよう、今から基礎を固めておいてください。〔酒井昂佑〕

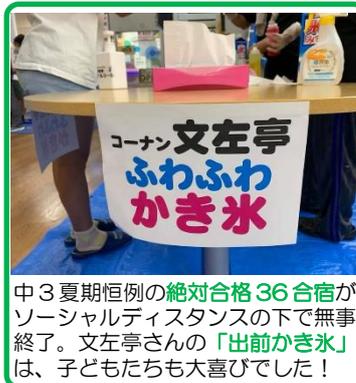
8月・9月のおもなスケジュール		
8/31	月	【休 室】
9/1	火	2学期授業開始
5	土	中3入試突破ゼミ【月3回】
6	日	夏期公開テスト【小4～中3】
12	土	中3入試突破ゼミ【月3回】
13	日	自習室開室（12:00～18:00）
20	日	自習室開室（12:00～18:00）
21	月	敬老の日【授業なし・特進館アカデミー】
22	火	敬老の日【授業なし・特進館アカデミー】
23～26		【授業なし・自習室のみ】
26	土	中3入試突破ゼミ【月3回】
27	日	自習室開室（12:00～18:00）
29	火	新クラス発表

向き合うべきもの

努力は必ず報われるという人がいます。それを鵜呑みにしてやみくもに努力する人がいます。そしてそのような人は一回の努力で結果が出ないと努力をやめてしまい、こう言います。「努力は必ず報われるなんて嘘だ」と。

努力が報われない人には特徴があります。まずは、何のためにどのような努力が必要かを真剣に分析していないこと。次に、最終目標に向けてのスマールステップを設定していないこと。最後に、結果や現状と正しく向き合うことから逃げていること。この三つを満たしていれば努力は決して報われません。

都合のよいものだけを見て何も考えないのはとても楽です。しかし、楽の上に乗る努力にどんな価値があるのでしょうか。〔金子祐太〕



中3夏期恒例の絶対合格36合宿がソーシャルディスタンスの下で無事終了。文左亭さんの「出前かき氷」は、子どもたちも大喜びでした！

7月の「自習王」決定!

- ★中学生の部
中3 平松琉星 84.6 時間
- ★高校生の部
高3 山下 将 200.0 時間

説明する力をつける

今、鬼を退治する漫画が話題です。しかし感想を聞いても、単に「面白いから」と返ってくる人が多い気がします。「どういうところが面白いのか」は人によって違うはず。「具体的にどう面白いのか」を説明できる力をつけてほしいと思います。それはきっと国語力につながるはず。まずは、身近な人に好きな作品のどんなところが好きか話してみてください。〔厚地香里〕

9月分 **8月27日**
学費の振替 (木)

9月より実施されます入試突破ゼミを受講される中3生の方は、教材費を授業料と合算させていただきます。金額の詳細につきましては明細をご確認ください。

『がくりょく』をつける

ご家庭でぜひお子様にしてあげてほしいこと。それは『がくりょく』をつける、ということです。「塾が何を今さら」と思われるかも？ 私が申し上げたいのは『学力』ではなく『顎力』、つまり「アゴの力」なのです。「最近の子どもは頑張りがきかない」とよく言われますが、「頑張れない」、つまり歯を食いしばって我慢することができずすぐに諦めてしまう。この原因に、ピザやハンバーグ・スパゲティなどの柔らかい食べ物ばかりを口にして育つために、アゴの力が発達しない。だから、学習も粘り強く頑張ることができない…というのがあるようです。

たとえば、公教育などでマスコミを騒がせたワードを時代別に並べてみると、『不登校』、『いじめ』、『キレる』、『恐喝』、そしてたまに『殺傷事件』など、どんどんエスカレートしていくのが懸念されますが、これらの社会問題はすべて子どもたちの『顎力』つまり『我慢する力』の欠乏に負うものではないのでしょうか？ 昔の子どもは平気で1分間以上は息を止めることができたのに、今では30～40秒続く子どもすらあまりいない、というのが実状です。体格は明らかに良くなっているのに、まさに『顎力』が低下している証拠だと考えられます。たまには、フランスパンや、堅焼煎餅・チャイナマーブルなどをかじってみるのもいいのではないのでしょうか？〔北村昌弘〕



代表北村の独り言

今の子どもたちが社会人になって活躍する数十年後。世間は、『コロナ世代』と彼らと呼ぶのでしょうか？「辛い経験をした子どもは強くなる」と言いますが、ぜひ歯を食いしばって今を乗り越えてほしいものです。

編集後記

例年より長い梅雨が明けたとたん、蒸し暑い空気と照り付ける太陽で身体が悲鳴をあげております。今年はマスク着用で過ごす夏…、普段よりも熱中症リスクが高まっていると聞きます。スポーツや野外活動、子どもたちの部活動など、思い切り汗をかくときには、自分も周りも水分補給や体温の上昇に気をつけます。しかし、日常生活のなかでは、のどが潤って水分をとる、少し暑くてもエアコンの使用を控えることをしてしまいます。いままで大丈夫だったから…ではなく、しっかりと対策をしていきたいと思ひます。